

循環型社会の実現に向けた 当社の取り組みと2026年の展望

代表取締役社長
伊藤 雅文



新年あけましておめで
とうございます。旧年中
は格別のご支援を賜り、
心より御礼申し上げます。
昨年、再生可能エネル
ギー分野は大きな転換期
を迎えるました。国内では
ペロブスカイト太陽電池

の量産化計画が相次ぎ、
政府・自治体による支援

切なりリサイクル体制の整備が進みました。加えて、使用済みパネルの「リサイクル義務化」に向けた法案検討も再始動し、資源循環への関心が一段と高まっています。

を除去する「EX-スクレーパー」は高純度ガラスの回収を可能にし、大手板ガラスメーカーの評価を得て水平リサイクルを実現しました。板ガラスメーカーと連携し、リサイクル装置を普及させると同時に分離したガラスの再資源化に取り組んでまいります。

本年は、リサイクル装
置の性能向上と普及拡大
を進めるとともに、FHS装
置・環境サービス事業の
成長を図り、新技術・新
市場への挑戦を加速させ
ます。
皆様のご支援をお願い
申し上げます。

ど、次世代技術の実装が加速しています。一方、設置後10年以上が経過した太陽光パネルの処理量増加が見込まれる中、国が再資源化事業者を認定する高度化法の施行により、適

を展開してまいりました。再工ネ分野の循環型社会の実現に向け、独自の「ホットナイフ分離法(R)」を用いたガラス分離装置により、パネルをガラスとセル／EVAシートに分離し、資源価値の高い板ガラスを回収しています。さらに、わざわざ残るEVA膜

棄物業界では、既存のコンベアに組み込めるAI搭載ロボットによる選別機の導入により、省力化を実現しています。環境サービス事業では、太陽光発電所の検査に加え、リユース・リサイクルまでを見据えた体制を強化しています。特に、産業廃棄物の分別回収で培った技術を活用して、資源循環の促進に貢献してまいります。

また、ペロ
ブスカイト型
電池製造装
置・FA装置
事業では自動
化技術を基盤
に、多様な産

を展開してまいりました。再エネ分野の循環型社会の実現に向け、独自の「ホットナイフ分離法(R)」を用いたガラス分離装置により、パネルをガラスとセル／EVAシートに分離し、資源価値の高い板ガラスを回収しています。さらに、わずかに残るEVA膜を除去する「EVAスクレーパー」は高純度ガラスの回収を可能にし、大手板ガラスメーカーの評価を得ました。板ガラスメーカーと連携し、リサイクル装置を普及させると同時に、分離したガラスの再資源化に取り組んでまいります。

業界では、既存のコ
ンベアに組み込めるAI
搭載ロボットによる選別
機の導入により、省力化
を実現しています。環境
サービス事業では、太陽
光発電所の検査に加え、
リユース・リサイクルま
でを見据えた体制を強化
しています。

本年は、リサイクル装
置の性能向上と普及拡大
を進めるとともに、F社
置・環境サービス事業の
成長を図り、新技術・新
市場への挑戦を加速させ
ます。

皆様のご支援をお願い
申し上げます。